

平成 27 年度第 2 回十和田市外部評価専門部会会議録

日 時 平成 28 年 1 月 15 日（金） 13 : 15～15:35

場 所 十和田市役所本館 3 階第 1 委員会室

- 案 件 (1) 外部評価対象事業の概要説明及び質疑応答
- ① 健康長寿応援事業（健康増進課）
 - ② 自主防災組織育成助成事業（総務課）
 - ③ 6 次産業化の促進（とわだ産品販売戦略課）
 - ④ 企業誘致推進事業（商工労政課）

出席者 櫻田委員、高井委員、江渡委員、小林（博）委員、山端委員
（欠席委員 立崎委員）

担当課 健康増進課：北館課長、佐々木課長補佐、畑山課長補佐
総務課：田村課長、長畑係長、太田主査
とわだ産品販売戦略課：平館課長
商工労政課：佐々木課長

事務局 北館部長、田村課長、森課長補佐、高松係長、吉原主任主査、佐々木主事

会議内容

(1) 外部評価対象事業の概要説明及び質疑応答

- ① 「健康長寿応援事業」について、健康増進課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
櫻田委員	<ul style="list-style-type: none">○ エンジョイウォークは大変良い事業である。何年継続していくのか？◆ 効果を判断するため最低でも 3 年は行う。○ 太素ウォーク等の他の事業とも連携を図りながら事業の周知を行ってはどうか。
山端委員	<ul style="list-style-type: none">○ なぜこの事業を選んだのか。もっと事業を展開するべきという意見が欲しいのか。◆ 市民の意見を反映させ、今後よりよい事業を展開するためのものである。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康づくりは医療費の削減につながるため、継続した方が良い。しかし、事業に対する評価については、担当者だけでなくより広く意見を求めて公平に行うべきではないか ○ 運動習慣づくりを若い人にも広げるため、景品の選択肢を広げてはどうか。 ◆ 健康増進法上の対象年齢は45歳からとなっているが、景品の拡充を検討したい。
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 20代～30代の参加者が少ない。子育てで忙しい人や、働いている人の参加者を増やす取り組みは。 ◆ 保育園等にもチラシを配布しており、親子参加を促している。
江渡委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特定健診・がん検診等の周知は、はがきだけか。 ◆ 今年度からごみ収集所等への貼りだし等の周知方法の追加をしている。
高井委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的にウォーキングするような意識の高い人は、歩数計のような景品では参加意欲を刺激されない。継続できる目標作りのためには、消費カロリーや目標距離数に応じたモデルコースの設定と案内が必要ではないか。 ◆ 現在モデルコースの設定とコース看板の設置については、他会議でも提案を受けているため現在検討している。

② 「自主防災組織育成助成事業」について、総務課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
櫻田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織は町内会単位か。 ◆ 町内会単位が多いが、複数の町内会で構成されている地域もある。 ○ 企業等が参加することは可能か。 ◆ 可能である。
山端委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ なぜこの事業を選んだのか。各自主防災組織のその後の活動状況がわからなければ評価できないのではないか。 ◆ 事業実施の手法も含めて評価をお願いしている。単に自主防災組織を作っただけでは意味がないため、実践的訓練も含めた活動を呼び掛けていきたい。
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町内会がない地域ではどうしているのか。 ◆ 空白地帯については今後対応を検討したい。
江渡委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時要援護者の把握はどこ部署でしているのか。 ◆ 福祉課がリストを作成している。本人の同意が得られたも

	<p>のについては、当該地域の自主防災組織と町内会に情報を提供している。</p>
高井委員	<p>○ 各組織の資材はどこで保管しているのか。</p> <p>◆ 各地域の集会所等で保管している。</p> <p>○ 何かあった時にはあそこへ行けば資材がある、というような体制になるよう、市が積極的にコントロールする必要があるのではないか。</p> <p>◆ リスクが高い地域に対し、市から積極的に組織化を呼び掛けていきたい。今後は、防災士を中心とした組織化も考えたい。</p>

③ 「6次産業化の促進」について、とわだ産品販売戦略課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
櫻田委員	<p>○ 遊休施設はあるのか。</p> <p>◆ 廃校施設、旧町給食センター等の活用について検討したい。</p> <p>○ 加工施設の整備はどうか。</p> <p>◆ 加工施設は平川市にあるため、雇用創出と地域の活性化につながる拠点施設を作りたい。</p> <p>○ 三本木農業高校と連携してはどうか。</p> <p>◆ これまでも共同開発の実績がいくつかある。</p>
山端委員	<p>○ おいらせ大地の取り組みは成功事例としてもっとアピールするべきではないか。</p> <p>◆ 農林畜産課と連携し、新規営農者の拡大に向けて取り組みたい。</p>
小林委員	<p>○ 加工所を作る話はもう20年も前からしている。十和田市でしか食べられないもの、買えないものを作るべき。</p>
高井委員	<p>○ 6次産業化の対象は、1次産品として販売できない傷物等の利用が主流ではないか。</p> <p>◆ 近年は1次産品の1級品をそのまま加工品に使用するようになっている。</p>

④ 「企業誘致推進業務」について、商工労政課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
櫻田委員	<p>○ 農地転用に1年半もかかった理由は。</p> <p>◆ 原則転用できない1種農地の転用だったため時間がかか</p>

	<p>ったものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他の企業の誘致についてはどうか。 ◆ 旧町の給食センター、民間の空き施設等を使用したいという話が数件あったが、条件面で折り合わなかった。 ○ 観光大使との交流は。 ◆ 広報の郵送のほか懇談会により交流している。
高井委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工場で加工するのは県産材か。 ◆ お見込みのとおりである。
櫻田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 補助金の交付はどのようなになっているのか。 ◆ 5年間で交付する。